

京都府立大学 本館屋上防水改修工事

図面番号	図名
A-01	表紙・図面リスト
A-02	建築改修工事特記仕様書1
A-03	建築改修工事特記仕様書2
A-04	付近見取図・配置図
A-05	屋上平面図（改修前）
A-06	屋上平面図（改修後）
A-07	部分詳細図1
A-08	部分詳細図2
A-09	部分詳細図3
A-10	（参考図）地階平面図
A-11	（参考図）1階平面図
A-12	（参考図）2階平面図
A-13	（参考図）3階平面図
A-14	（参考図）南・西立面図
A-15	（参考図）北・東立面図
A-16	（参考図）断面図

	Kyoto Prefectural University 京都府立大学事務局総務課	工事名 京都府立大学 本館屋上防水改修工事	図番 No. 01
	設計番号 令和4年11月	図名 表紙・図面リスト	縮尺 —
			16 枚の内

<p>2 土・鉄筋・コンクリート工事</p> <p>1 埋め戻し及び盛土 (3.2.3)</p> <p>2 建設発生土の処理 (3.2.5)</p> <p>3 鉄筋の種類 (5.2.1)</p> <p>4 溶接金網 (5.2.2)</p> <p>5 コンクリートの種類 (6.2.1)</p> <p>6 コンクリートの強度 (6.2.2)</p> <p>7 セメントの類別 (6.3.1)</p> <p>8 骨材 (6.3.1)</p> <p>9 混和材料 (6.3.1)</p>	<p>本章の項目及び特記事項の()内表示番号は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 公共建築工事標準仕様書(平成31年版)の該当項目、該当図又は該当表を示す。 なお、耐震改修工事に係る「鉄筋・コンクリート」の取り扱いは、後述の章「8 耐震改修工事」によるものとする。</p> <p>○ A種 砂質土(山砂の類)を水締め又は機器による締固め (表3.2.1)</p> <p>○ B種 根切り土中の良質土を機器による締固め</p> <p>○ C種 他現場の建設発生土中の良質土を機器による締固め</p> <p>○ D種 再生コンクリート砂を水締め又は機器による締固め</p> <p>○ その他(材料 _____ 工法 _____)</p> <p>○ 建設発生土(盛土材)の外部からの受入土量 (m³) _____</p> <p>発生場所 (_____)</p> <p>下記に定めるほかは、現場説明書による</p> <p>○ 構外指示の受入場所に処分</p> <p>受入場所 ○ (一財)城陽山砂利採取地整備公社 ○ _____</p> <p>土壌調査 ○ 行う (受入場所指定の検査) ○ _____</p> <p>○ 京都府土砂等による土地の立役等規制に関する条例施行規則第7条第3項13号及び第4項に規定する方法</p> <p>仮置場所 ○ _____</p> <p>○ 構内指示の場所に敷き均し</p> <p>○ 構内指示の場所にたい積</p> <p>○ 構外搬出適切処理 ※ 中丹東土木事務所管内及び丹後土木事務所管内で、搬出土量が少量(500m³以内)かつ緊急の場合等 (表5.2.1)</p>																																		
	<table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>種類</th> <th>径(mm)</th> <th>備</th> <th>考</th> </tr> <tr> <td rowspan="2">異形鉄筋</td> <td>※SD295A</td> <td>D/6以下</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>※SD345</td> <td>D/19以上</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	種類	種類	径(mm)	備	考	異形鉄筋	※SD295A	D/6以下			※SD345	D/19以上			○																			
	種類	種類	径(mm)	備	考																														
	異形鉄筋	※SD295A	D/6以下																																
		※SD345	D/19以上																																
	○																																		
	<p>設計基準強度(Fc)</p> <table border="1"> <tr> <th>打設部位</th> <th>Fc(N/mm²)</th> <th>スランプ(cm)</th> <th>備</th> <th>考</th> </tr> <tr> <td rowspan="2">構造体</td> <td>基礎</td> <td>○24 ○</td> <td>○15 ○18</td> <td></td> </tr> <tr> <td>上部</td> <td>○24 ○</td> <td>○15 ○18</td> <td>土間スラブを含む</td> </tr> <tr> <td>土間コンクリート</td> <td>○18 ○</td> <td>○15 ○18</td> <td></td> <td>側溝・犬走り</td> </tr> <tr> <td>捨コンクリート</td> <td>○18 ○</td> <td>○15 ○18</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>軽量コンクリート</td> <td>○21 ○</td> <td>※21 ○18</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>無筋コンクリート</td> <td>※18 ○</td> <td>○15 ○18</td> <td></td> <td>標仕6.14.1による</td> </tr> </table> <p>※ 構造体コンクリートの発注強度は以下のとおりとする。 [Fc+構造体強度補正值(S)] N/mm² (6.14.1によるもの及び土間コンクリートは構造体強度補正は行わない)</p>	打設部位	Fc(N/mm ²)	スランプ(cm)	備	考	構造体	基礎	○24 ○	○15 ○18		上部	○24 ○	○15 ○18	土間スラブを含む	土間コンクリート	○18 ○	○15 ○18		側溝・犬走り	捨コンクリート	○18 ○	○15 ○18			軽量コンクリート	○21 ○	※21 ○18			無筋コンクリート	※18 ○	○15 ○18		標仕6.14.1による
	打設部位	Fc(N/mm ²)	スランプ(cm)	備	考																														
	構造体	基礎	○24 ○	○15 ○18																															
上部		○24 ○	○15 ○18	土間スラブを含む																															
土間コンクリート	○18 ○	○15 ○18		側溝・犬走り																															
捨コンクリート	○18 ○	○15 ○18																																	
軽量コンクリート	○21 ○	※21 ○18																																	
無筋コンクリート	※18 ○	○15 ○18		標仕6.14.1による																															
<p>※ 普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種</p> <p>○ 高炉セメントB種 (適用箇所 _____)</p> <p>○ シリカセメント</p> <p>○ フライアッシュセメントB種 (施工箇所 _____)</p>																																			
<p>粗骨材 ※ 砂利(JIS A5308)、砕石(JIS A5005) ○ 高炉スラグ ○ 電気炉酸化スラグ</p> <p>○ 再生骨材H</p> <p>細骨材 ※ 砂(JIS A5308)、砕石(JIS A5005) ○ 高炉スラグ ○ 電気炉酸化スラグ</p> <p>○ 鋼スラグ ○ フェロニッケルスラグ</p> <p>○ 再生骨材H</p> <p>アルカリシリカ反応性による区分 ※ A (無害) ○ _____</p>																																			
<p>○ 混和剤 ※ AE剤、AE減水剤又は高性能AE減水剤のI種 (JIS A 6204)</p> <p>防錆剤 ※ 鉄筋コンクリート用防錆剤 (JIS A 6025)</p> <p>○ 混和材 ※ フライアッシュ (JIS A 6201) I種、II種若しくはIV種</p> <p>○ コンクリート用高炉スラグ微粉末 (JIS A 6206)</p> <p>○ コンクリート用シリカフェューム (JIS A 6207)</p> <p>○ コンクリート用膨張材 (JIS A 6202)</p>																																			

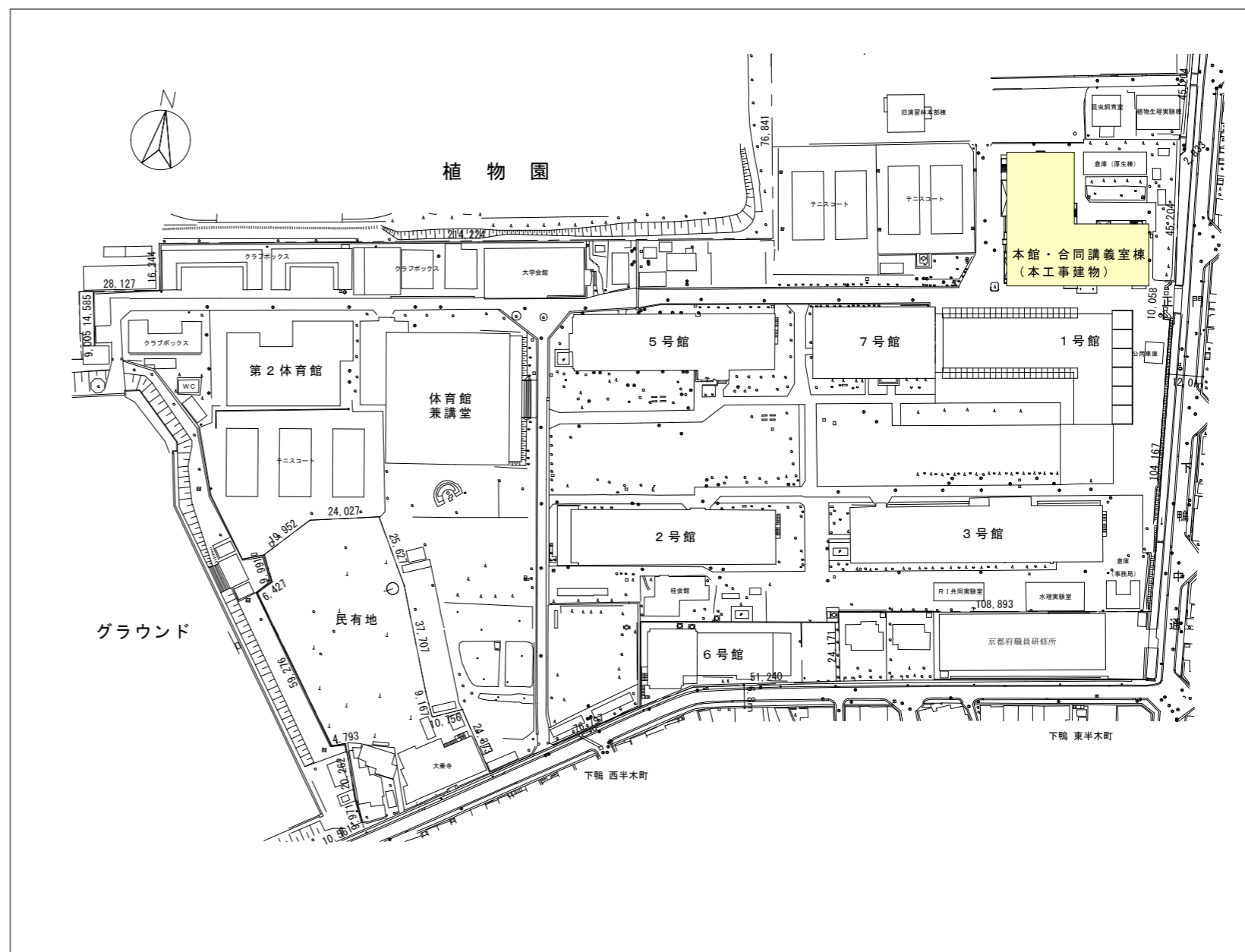
<p>2 土・鉄筋・コンクリート工事</p> <p>15 コンクリート車の過積載防止対策等</p> <p>1 既存下地の処理 (3.2.6)</p> <p>2 アスファルト防水 (3.3.2) ~ (3.3.5)</p> <p>3 防水改修工事</p>	<p>10 構造体強度補正值 (6.3.2)</p> <p>※ 気温による構造体強度補正值 (S) (表6.3.2)</p> <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">予想平均気温(℃)</th> <th rowspan="2">補正值</th> <th colspan="3">期間 (打設日)</th> </tr> <tr> <th>普通</th> <th>早強</th> <th>(S)</th> </tr> <tr> <td>8以上</td> <td>5以上</td> <td>3</td> <td>3/6 ~ 6/30</td> <td>3/11 ~ 7/20</td> <td>3/1 ~ 7/10</td> </tr> <tr> <td>0以上</td> <td>0以上</td> <td>6</td> <td>9/11 ~ 11/15</td> <td>9/1 ~ 11/5</td> <td>9/1 ~ 10/31</td> </tr> <tr> <td>8未満</td> <td>5未満</td> <td>N/mm²</td> <td>11/16 ~ 3/5</td> <td>11/6 ~ 3/10</td> <td>11/1 ~ 3/10</td> </tr> </table> <p>南部地域 (京都市(一部を除く)、旧八木町、旧園部町以南の市町村) 北部地域 (宮津市、旧加悦町以北の市町) 中部地域 (上記以外の市町、旧美山町及び旧京北町含む)</p>	予想平均気温(℃)	補正值	期間 (打設日)			普通	早強	(S)	8以上	5以上	3	3/6 ~ 6/30	3/11 ~ 7/20	3/1 ~ 7/10	0以上	0以上	6	9/11 ~ 11/15	9/1 ~ 11/5	9/1 ~ 10/31	8未満	5未満	N/mm ²	11/16 ~ 3/5	11/6 ~ 3/10	11/1 ~ 3/10	
	予想平均気温(℃)			補正值	期間 (打設日)																							
		普通	早強		(S)																							
	8以上	5以上	3	3/6 ~ 6/30	3/11 ~ 7/20	3/1 ~ 7/10																						
	0以上	0以上	6	9/11 ~ 11/15	9/1 ~ 11/5	9/1 ~ 10/31																						
	8未満	5未満	N/mm ²	11/16 ~ 3/5	11/6 ~ 3/10	11/1 ~ 3/10																						
	<p>11 コンクリートの試験 (6.9.2) ~ (6.9.5)</p> <p>※ フレッシュコンクリートの試験</p> <p>○ 省略する</p>																											
	<p>12 軽量コンクリート (6.10.1) ~ (6.10.3)</p> <p>常時土又は水に直接接する部分の使用 ○ 可 ○ 不可</p> <p>種類 ○ 1種 ○ 2種</p> <p>施工箇所 _____</p> <p>気乾単位容積質量 _____ t/m³</p>																											
	<p>13 寒中コンクリート (6.11.1)</p> <p>※ 予想平均気温が表6.3.2に示す予想平均気温未満の場合には標仕第6章第11節(寒中コンクリート)による。</p>																											
	<p>14 暑中コンクリート (6.12.2)</p> <p>※ 暑中における構造体強度補正值 (S)</p> <table border="1"> <tr> <th>地域</th> <th>日平均気温が25度を超える期間(打設日)</th> <th>補正值</th> </tr> <tr> <td>北部地域</td> <td>7月11日~8月31日</td> <td>※6N/mm²</td> </tr> <tr> <td>中部地域</td> <td>7月21日~8月31日</td> <td>○3N/mm²</td> </tr> <tr> <td>南部地域</td> <td>7月1日~9月10日</td> <td></td> </tr> </table>	地域	日平均気温が25度を超える期間(打設日)	補正值	北部地域	7月11日~8月31日	※6N/mm ²	中部地域	7月21日~8月31日	○3N/mm ²	南部地域	7月1日~9月10日																
	地域	日平均気温が25度を超える期間(打設日)	補正值																									
	北部地域	7月11日~8月31日	※6N/mm ²																									
	中部地域	7月21日~8月31日	○3N/mm ²																									
	南部地域	7月1日~9月10日																										
<p>受注者は、出荷伝票等を整理・保管し、監督職員の請求があった場合は、遅滞なく提出するとともに、検査時に提示しなければならない。また、ミキサ車1台毎の積載量が把握できる運搬管理表を検査時に提出しなければならない。</p>																												
<p>既存下地の修正箇所の形状、長さ、数量等 ○ 図示による ○ _____</p>																												
<p>○ 保護防水工法</p> <table border="1"> <tr> <th>種</th> <th>別</th> <th>防水層</th> <th>施工箇所</th> </tr> <tr> <td rowspan="2">○ P1 B 工法</td> <td>○ B-1</td> <td>○ B-2</td> <td rowspan="2">表3.3.3</td> </tr> <tr> <td>○ B-3</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">○ P1 B I 工法</td> <td>○ BI-1</td> <td>○ BI-2</td> <td rowspan="2">表3.3.4</td> </tr> <tr> <td>○ BI-3</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">○ P2 A I 工法</td> <td>○ AI-1</td> <td>○ AI-2</td> <td rowspan="2">表3.3.5</td> </tr> <tr> <td>○ AI-3</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">○ P2 A 工法</td> <td>○ A-1</td> <td>○ A-2</td> <td rowspan="2">表3.3.6</td> </tr> <tr> <td>○ A-3</td> <td></td> </tr> </table>	種	別	防水層	施工箇所	○ P1 B 工法	○ B-1	○ B-2	表3.3.3	○ B-3		○ P1 B I 工法	○ BI-1	○ BI-2	表3.3.4	○ BI-3		○ P2 A I 工法	○ AI-1	○ AI-2	表3.3.5	○ AI-3		○ P2 A 工法	○ A-1	○ A-2	表3.3.6	○ A-3	
種	別	防水層	施工箇所																									
○ P1 B 工法	○ B-1	○ B-2	表3.3.3																									
	○ B-3																											
○ P1 B I 工法	○ BI-1	○ BI-2	表3.3.4																									
	○ BI-3																											
○ P2 A I 工法	○ AI-1	○ AI-2	表3.3.5																									
	○ AI-3																											
○ P2 A 工法	○ A-1	○ A-2	表3.3.6																									
	○ A-3																											
<p>○ 露出防水工法</p> <table border="1"> <tr> <th>種</th> <th>別</th> <th>防水層</th> <th>施工箇所</th> <th colspan="2">仕上塗料</th> </tr> <tr> <td rowspan="2">○ M4 C 工法</td> <td rowspan="2">○ C-1</td> <td rowspan="2">○ C-2</td> <td rowspan="2">表3.3.7</td> <td>種類</td> <td>使用量</td> </tr> <tr> <td>○ C-3</td> <td>○ C-4</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">○ M3 D 工法</td> <td rowspan="2">○ D-1</td> <td rowspan="2">○ D-2</td> <td rowspan="2">表3.3.8</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ D-3</td> <td>○ D-4</td> </tr> </table>	種	別	防水層	施工箇所	仕上塗料		○ M4 C 工法	○ C-1	○ C-2	表3.3.7	種類	使用量	○ C-3	○ C-4	○ M3 D 工法	○ D-1	○ D-2	表3.3.8			○ D-3	○ D-4						
種	別	防水層	施工箇所	仕上塗料																								
○ M4 C 工法	○ C-1	○ C-2	表3.3.7	種類	使用量																							
				○ C-3	○ C-4																							
○ M3 D 工法	○ D-1	○ D-2	表3.3.8																									
				○ D-3	○ D-4																							
<p>○ 露出防水絶縁断熱工法</p> <table border="1"> <tr> <th>種</th> <th>別</th> <th>防水層</th> <th>施工箇所</th> <th colspan="2">仕上塗料</th> </tr> <tr> <td rowspan="2">○ P0 D I 工法</td> <td rowspan="2">○ DI-1</td> <td rowspan="2">○ DI-2</td> <td rowspan="2">表3.3.9</td> <td>種類</td> <td>使用量</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </table>	種	別	防水層	施工箇所	仕上塗料		○ P0 D I 工法	○ DI-1	○ DI-2	表3.3.9	種類	使用量																
種	別	防水層	施工箇所	仕上塗料																								
○ P0 D I 工法	○ DI-1	○ DI-2	表3.3.9	種類	使用量																							
<p>○ 屋内防水工法</p> <table border="1"> <tr> <th>種</th> <th>別</th> <th>防水層</th> <th>施工箇所</th> </tr> <tr> <td rowspan="2">○ P1 E 工法</td> <td rowspan="2">○ E-1</td> <td rowspan="2">○ E-2</td> <td rowspan="2">表3.3.10</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ P2 E 工法</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	種	別	防水層	施工箇所	○ P1 E 工法	○ E-1	○ E-2	表3.3.10			○ P2 E 工法																	
種	別	防水層	施工箇所																									
○ P1 E 工法	○ E-1	○ E-2	表3.3.10																									
○ P2 E 工法																												
<p>○ 断熱材 (屋根保護防水断熱工法)</p> <p>厚さ _____ mm</p>																												
<p>○ 断熱材 (屋根露出防水断熱工法)</p> <p>厚さ _____ mm</p> <p>種類 _____</p>																												
<p>ルーフトレン回り及び立上り部周辺の断熱材の張りじまい位置</p> <p>※ 図示による ○ _____</p>																												

<p>3 改質アスファルトシート防水 (3.4.2) ~ (3.4.4)</p> <p>4 合成高分子系ルーフトレン防水 (3.5.2) ~ (3.5.4)</p> <p>5 アルミニウム製 笠木 (3.9.2) (3.9.3)</p>	<p>絶縁用シート ※ ポリエチレンフィルム厚0.15 (保護防水工法)</p> <p>※ フラットヤーコンロス (70g/m²程度) (保護防水断熱工法)</p> <p>○ _____</p> <p>押え金物 ※ アルミニウム製 L-30×15×2.0 ○ _____</p> <p>立上り部の保護 ○ 乾式保護材 (_____)</p> <p>○ 普通れんが (JIS R 1250) ○ 化粧れんが (JIS R 1250) ○ _____</p> <p>○ コンクリート(工法 _____)</p> <p>保護層 平場のコンクリート厚さ ○ _____ mm</p> <p>○ こて仕上げ _____ mm</p> <p>○ 床タイル張り等仕上げ _____ mm</p> <p>コンクリート仕上りの平たんさ ○ a種 ○ b種 ○ c種</p> <p>脱気装置 ○ 設ける 材 種 (_____)</p> <p>設置数量 (1箇所/ _____ m²)</p> <p>伸縮調整目地 ※ 成形伸縮目地材 ○ _____</p> <p>成形緩衝材 ※ ルーフトレン類製造所の指定品 ○ _____</p> <p>屋上排水溝 ※ 図示による</p>																															
	<p>○ 露出防水密着工法</p> <table border="1"> <tr> <th>種</th> <th>別</th> <th>防水層</th> <th>施工箇所</th> <th colspan="2">仕上塗料</th> </tr> <tr> <td rowspan="2">○ M4 A S 工法</td> <td rowspan="2">○ AS-T1</td> <td rowspan="2">○ AS-T2</td> <td rowspan="2">表3.4.1</td> <td>種類</td> <td>使用量</td> </tr> <tr> <td>○ AS-J2</td> <td></td> </tr> </table>	種	別	防水層	施工箇所	仕上塗料		○ M4 A S 工法	○ AS-T1	○ AS-T2	表3.4.1	種類	使用量	○ AS-J2																		
	種	別	防水層	施工箇所	仕上塗料																											
	○ M4 A S 工法	○ AS-T1	○ AS-T2	表3.4.1	種類	使用量																										
					○ AS-J2																											
	<p>○ 露出防水絶縁工法</p> <table border="1"> <tr> <th>種</th> <th>別</th> <th>防水層</th> <th>施工箇所</th> <th colspan="2">仕上塗料</th> </tr> <tr> <td rowspan="2">○ M3 A S 工法</td> <td rowspan="2">○ AS-T3</td> <td rowspan="2">○ AS-T4</td> <td rowspan="2">表3.4.2</td> <td>種類</td> <td>使用量</td> </tr> <tr> <td>○ P0 A S 工法</td> <td>○ AS-J1</td> <td>○ AS-J3</td> </tr> </table>	種	別	防水層	施工箇所	仕上塗料		○ M3 A S 工法	○ AS-T3	○ AS-T4	表3.4.2	種類	使用量	○ P0 A S 工法	○ AS-J1	○ AS-J3																
	種	別	防水層	施工箇所	仕上塗料																											
	○ M3 A S 工法	○ AS-T3	○ AS-T4	表3.4.2	種類	使用量																										
					○ P0 A S 工法	○ AS-J1	○ AS-J3																									
	<p>○ 露出防水絶縁断熱工法</p> <table border="1"> <tr> <th>種</th> <th>別</th> <th>防水層</th> <th>施工箇所</th> <th colspan="2">仕上塗料</th> </tr> <tr> <td rowspan="2">○ M3 A S I 工法</td> <td rowspan="2">○ ASI-T1</td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2">表3.4.3</td> <td>種類</td> <td>使用量</td> </tr> <tr> <td>○ M4 A S I 工法</td> <td>○ ASI-J1</td> </tr> <tr> <td>○ P0 A S I 工法</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	種	別	防水層	施工箇所	仕上塗料		○ M3 A S I 工法	○ ASI-T1		表3.4.3	種類	使用量	○ M4 A S I 工法	○ ASI-J1	○ P0 A S I 工法																
	種	別	防水層	施工箇所	仕上塗料																											
	○ M3 A S I 工法	○ ASI-T1		表3.4.3	種類	使用量																										
					○ M4 A S I 工法	○ ASI-J1																										
	○ P0 A S I 工法																															
<p>押え金物の材質、形状及び寸法</p> <p>※ アルミニウム製 L-30×15×2.0(mm)程度 ○ _____</p> <p>断熱材 (露出防水絶縁断熱工法)</p> <p>厚さ _____ mm</p> <p>種類 ○ _____</p>																																
<p>脱気装置 (絶縁工法) ※ 設ける 材 種 (_____) 設置数量 (1箇所/ _____ m²)</p> <p>防湿層 (露出防水絶縁断熱工法) ○ 設ける ○ 設けない</p>																																
<table border="1"> <tr> <th>種</th> <th>別</th> <th>防水層</th> <th>施工箇所</th> <th colspan="2">仕上塗料</th> </tr> <tr> <td rowspan="2">○ P0 S 工法</td> <td rowspan="2">○ S(I)-F1</td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2">表3.5.1</td> <td>種類</td> <td>使用量</td> </tr> <tr> <td>○ S4 S 工法</td> <td>○ S(I)-F2</td> <td>○ S(I)-M1</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">○ P0 S I 工法</td> <td rowspan="2">○ S(I)-F2</td> <td rowspan="2">○ S(I)-M1</td> <td rowspan="2">表3.5.2</td> <td>種類</td> <td>使用量</td> </tr> <tr> <td>○ S4 S I 工法</td> <td>○ S(I)-M2</td> <td>○ S(I)-M3</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">○ S3 S 工法</td> <td rowspan="2">○ S(I)-F1</td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2">表3.5.3</td> <td>種類</td> <td>使用量</td> </tr> <tr> <td>○ S3 S I 工法</td> <td>○ S(I)-F2</td> </tr> </table> <p>PC部材入隅増強 (※有り ○無し)</p> <p>○ M4 S 工法 ○ S(I)-M1 ○ S(I)-M2</p> <p>○ M4 S I 工法 ○ S(I)-M3</p> <p>○ P1 S 工法 S-C1</p> <p>モルタル塗り厚さ _____ mm</p>	種	別	防水層	施工箇所	仕上塗料		○ P0 S 工法	○ S(I)-F1		表3.5.1	種類	使用量	○ S4 S 工法	○ S(I)-F2	○ S(I)-M1	○ P0 S I 工法	○ S(I)-F2	○ S(I)-M1	表3.5.2	種類	使用量	○ S4 S I 工法	○ S(I)-M2	○ S(I)-M3	○ S3 S 工法	○ S(I)-F1		表3.5.3	種類	使用量	○ S3 S I 工法	○ S(I)-F2
種	別	防水層	施工箇所	仕上塗料																												
○ P0 S 工法	○ S(I)-F1		表3.5.1	種類	使用量																											
				○ S4 S 工法	○ S(I)-F2	○ S(I)-M1																										
○ P0 S I 工法	○ S(I)-F2	○ S(I)-M1	表3.5.2	種類	使用量																											
				○ S4 S I 工法	○ S(I)-M2	○ S(I)-M3																										
○ S3 S 工法	○ S(I)-F1		表3.5.3	種類	使用量																											
				○ S3 S I 工法	○ S(I)-F2																											
<p>断熱材 (断熱工法)</p> <p>厚さ ○ _____ mm</p> <p>種類 _____</p> <p>機械的固定工法の場合</p> <p>○ _____</p> <p>接着工法の場合</p> <p>○ _____</p> <p>OS-M2 ● S1-M2 の場合で立上り部が接着工法の場合</p> <p>立上り面のシートの厚さ ※ 1.5 mm ○ mm</p> <p>S1-M1及びS1-M2の場合の防湿用フィルム ○ 設置する</p>																																
<p>接着工法の場合で、P Cコンクリート部材下地の場合</p> <p>目地処理 ※ 図示による ○ _____</p> <p>入隅部の増張り (S-F1、S1-F1の場合) ※ 図示による ○ _____</p> <p>絶縁用シート ※ 発泡ポリエチレンシート ○ _____</p> <p>仕上げ塗料 ○ 〇 _____</p> <p>脱気装置 (接着工法) ○ 設ける 材 種 (_____) 設置数量 (1箇所/ _____ m²)</p> <p>※ 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法を品質計画により定めること。</p> <p>固定金具の材質及び寸法形状</p> <p>※ 防錆処理した鋼板、ステンレス鋼板又はそれらの片面若しくは両面に樹脂を積層加工した鋼板で、厚さ0.4mm以上のもの</p> <p>○ _____</p>																																

<p>5 塗膜防水 (3.6.2) ~ (3.6.3)</p> <p>6 漏水試験</p> <p>7 保証書</p> <p>8 施工標識</p> <p>9 シーリング (3.7.2) ~ (3.7.8)</p> <p>10 とい(雨水) (3.8.2) (3.8.3)</p> <p>11 アルミニウム製 笠木 (3.9.2) (3.9.3)</p>	<p>種別及び工法</p> <table border="1"> <tr> <th>種別</th> <th>工法</th> <th>防水層</th> <th>施工箇所</th> <th colspan="2">仕上塗料</th> </tr> <tr> <td rowspan="2">○ P0 X 工法</td> <td rowspan="2">※ X-1</td> <td rowspan="2">○ X-2</td> <td rowspan="2">表3.6.1</td> <td>種類</td> <td>使用量</td> </tr> <tr> <td>○ L4 X 工法</td> <td>○ X-1</td> <td>● X-2</td> </tr> <tr> <td>○ P1 Y 工法</td> <td></td> <td>※ Y-2</td> <td>表3.6.2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ P2 Y 工法</td> <td></td> <td>○ _____</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>脱気装置(X-1) ○ 設ける 材 種 (_____) 設置数量 (1箇所/ _____ m²)</p> <p>保護層 ○ 設ける ● 設けない</p> <p>※ 水張り試験を行う (○ 屋内 ● 屋外)</p> <p>※ 受注者、防水施工業者、防水材料メーカーの連名による保証書を提出すること。 (保証年限は工事目的物引渡しより10年間以上とする。)</p> <p>工事完了後に監督職員の指示する位置へ取り付ける。</p> <p>材質 ※ 真鍮製エッチング仕上 150×100 ○ _____</p> <p>設置数量 (_____) 箇所</p> <p>シート材の種類 ※ 改修標仕表3.7.1による</p> <table border="1"> <tr> <th>改修工法の種別</th> <th>施工箇所</th> </tr> <tr> <td>○ シーリング充填工法</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ シーリング再充填工法</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 拡幅シーリング再充填工法</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ ブリッジ工法</td> <td></td> </tr> </table> <p>目地寸法</p> <p>コンクリートの打継ぎ目地及びびびり割れ誘発目地</p> <p>※ 幅20mm以上、深さ10mm以上 ○ _____</p> <p>ガラス回りの目地</p> <p>※ 幅5mm以上、深さ5mm以上 ○ _____</p> <p>その他の目地</p> <p>※ 幅10mm以上、深さ10mm以上 ○ _____</p> <p>シーリングの試験 ※ 簡易接着性試験 (部位 _____)</p> <p>○ 引張接着性試験 (部位 _____)</p> <p>※ 外とい(外気に接するとい)</p> <table border="1"> <tr> <th>材 種</th> <th>その 他</th> </tr> <tr> <td>ルーフトレン</td> <td>※ ルーフトレン (JCW 301) ○ 取付け ○ ※ 水はけ良く、床面より下げ、周囲の隙間にモルタルを充填する</td> </tr> <tr> <td>軒どい</td> <td>○ 硬質塩化ビニル製 (角形) (前高) 巾120mm ○ (カラー) 巾150mm</td> </tr> <tr> <td>たてとい</td> <td>○ 硬質塩化ビニル管 (VP) (カラー) 径 75mm</td> </tr> <tr> <td>谷どい</td> <td>○ _____</td> </tr> <tr> <td>とい受け金物、足金物</td> <td>※ 改修標仕表 3.8.2 により溶融垂鉛めっきを行ったもの ○ 多雪地域の軒といの取付間隔 0.5m 以下</td> </tr> </table> <p>○ 内とい (VP管は使用しない)</p> <table border="1"> <tr> <th>材 質</th> <th>その 他</th> </tr> <tr> <td>たてとい及び横走り管</td> <td>○ SGP ○ 径 75mm</td> </tr> <tr> <td>とい受け金物、足金物</td> <td>※ 改修標仕表 3.8.2 により溶融垂鉛めっきを行ったもの ○ 多雪地域の軒といの取付間隔 0.5m 以下</td> </tr> <tr> <td>防露巻き</td> <td>※ 改修標仕表3.8.3による ※ F☆☆☆☆</td> </tr> </table> <p>※ 掃除口を設ける (開放性のある自転車置き場のといを除く)</p> <p>○ 養生鉄管を設ける (径 _____ 厚さ _____ 長さ _____)</p> <p>○ 既存といの撤去及び養生 (_____)</p> <p>○ 鋼管製といの防露巻 (※ 改修標仕表3.8.4 による ○ _____)</p> <p>○ たてとい受金物 (_____)</p>	種別	工法	防水層	施工箇所	仕上塗料		○ P0 X 工法	※ X-1	○ X-2	表3.6.1	種類	使用量	○ L4 X 工法	○ X-1	● X-2	○ P1 Y 工法		※ Y-2	表3.6.2			○ P2 Y 工法		○ _____				改修工法の種別	施工箇所	○ シーリング充填工法		○ シーリング再充填工法		○ 拡幅シーリング再充填工法		○ ブリッジ工法		材 種	その 他	ルーフトレン	※ ルーフトレン (JCW 301) ○ 取付け ○ ※ 水はけ良く、床面より下げ、周囲の隙間にモルタルを充填する	軒どい	○ 硬質塩化ビニル製 (角形) (前高) 巾120mm ○ (カラー) 巾150mm	たてとい	○ 硬質塩化ビニル管 (VP) (カラー) 径 75mm	谷どい	○ _____	とい受け金物、足金物	※ 改修標仕表 3.8.2 により溶融垂鉛めっきを行ったもの ○ 多雪地域の軒といの取付間隔 0.5m 以下	材 質	その 他	たてとい及び横走り管	○ SGP ○ 径 75mm	とい受け金物、足金物	※ 改修標仕表 3.8.2 により溶融垂鉛めっきを行ったもの ○ 多雪地域の軒といの取付間隔 0.5m 以下	防露巻き	※ 改修標仕表3.8.3による ※ F☆☆☆☆
	種別	工法	防水層	施工箇所	仕上塗料																																																					
	○ P0 X 工法	※ X-1	○ X-2	表3.6.1	種類	使用量																																																				
					○ L4 X 工法	○ X-1	● X-2																																																			
	○ P1 Y 工法		※ Y-2	表3.6.2																																																						
	○ P2 Y 工法		○ _____																																																							
	改修工法の種別	施工箇所																																																								
	○ シーリング充填工法																																																									
	○ シーリング再充填工法																																																									
	○ 拡幅シーリング再充填工法																																																									
	○ ブリッジ工法																																																									
	材 種	その 他																																																								
	ルーフトレン	※ ルーフトレン (JCW 301) ○ 取付け ○ ※ 水はけ良く、床面より下げ、周囲の隙間にモルタルを充填する																																																								
	軒どい	○ 硬質塩化ビニル製 (角形) (前高) 巾120mm ○ (カラー) 巾150mm																																																								
たてとい	○ 硬質塩化ビニル管 (VP) (カラー) 径 75mm																																																									
谷どい	○ _____																																																									
とい受け金物、足金物	※ 改修標仕表 3.8.2 により溶融垂鉛めっきを行ったもの ○ 多雪地域の軒といの取付間隔 0.5m 以下																																																									
材 質	その 他																																																									
たてとい及び横走り管	○ SGP ○ 径 75mm																																																									
とい受け金物、足金物	※ 改修標仕表 3.8.2 により溶融垂鉛めっきを行ったもの ○ 多雪地域の軒といの取付間隔 0.5m 以下																																																									
防露巻き	※ 改修標仕表3.8.3による ※ F☆☆☆☆																																																									
<table border="1"> <tr> <th>種 類</th> <th>幅</th> <th>板厚(mm)</th> <th>表面処理</th> <th>備 考</th> </tr> <tr> <td rowspan="2">○ 250 形</td> <td rowspan="2">○ 240</td> <td rowspan="2">1.6</td> <td>○ AB-1種</td> <td>○ AB-2種</td> </tr> <tr> <td>○ AC-1種</td> <td>○ AC-2種</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">○ 300 形</td> <td rowspan="2">300</td> <td rowspan="2">1.8</td> <td>○ BA-1種</td> <td>○ BA-2種</td> </tr> <tr> <td>○ BB-1種</td> <td>○ BB-2種</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">○ 350 形</td> <td rowspan="2">350</td> <td rowspan="2">2.0</td> <td>○ BC-1種</td> <td>○ BC-2種</td> </tr> <tr> <td>○ C種</td> <td></td> </tr> </table> <p>曲げ材 ○ _____ ※ 2.0</p> <p>○ オープン 形 ○ _____</p> <p>○ シール 形 ○ _____</p> <p>既存笠木等の撤去 ○ 行う (範囲 ○ 図示 ○ _____)</p> <p>○ 行わない</p> <p>下地補修の工法 ※ 図示 ○ _____</p> <p>板材折曲げ形の笠木取付方法 ※ 図示 ○ _____</p> <p>建築基準法に基づく風圧力・積雪荷重に対応した工法 ※ 図示による ○ _____</p>	種 類	幅	板厚(mm)	表面処理	備 考	○ 250 形	○ 240	1.6	○ AB-1種	○ AB-2種	○ AC-1種	○ AC-2種	○ 300 形	300	1.8	○ BA-1種	○ BA-2種	○ BB-1種	○ BB-2種	○ 350 形	350	2.0	○ BC-1種	○ BC-2種	○ C種																																	
種 類	幅	板厚(mm)	表面処理	備 考																																																						
○ 250 形	○ 240	1.6	○ AB-1種	○ AB-2種																																																						
			○ AC-1種	○ AC-2種																																																						
○ 300 形	300	1.8	○ BA-1種	○ BA-2種																																																						
			○ BB-1種	○ BB-2種																																																						
○ 350 形	350	2.0	○ BC-1種	○ BC-2種																																																						
			○ C種																																																							

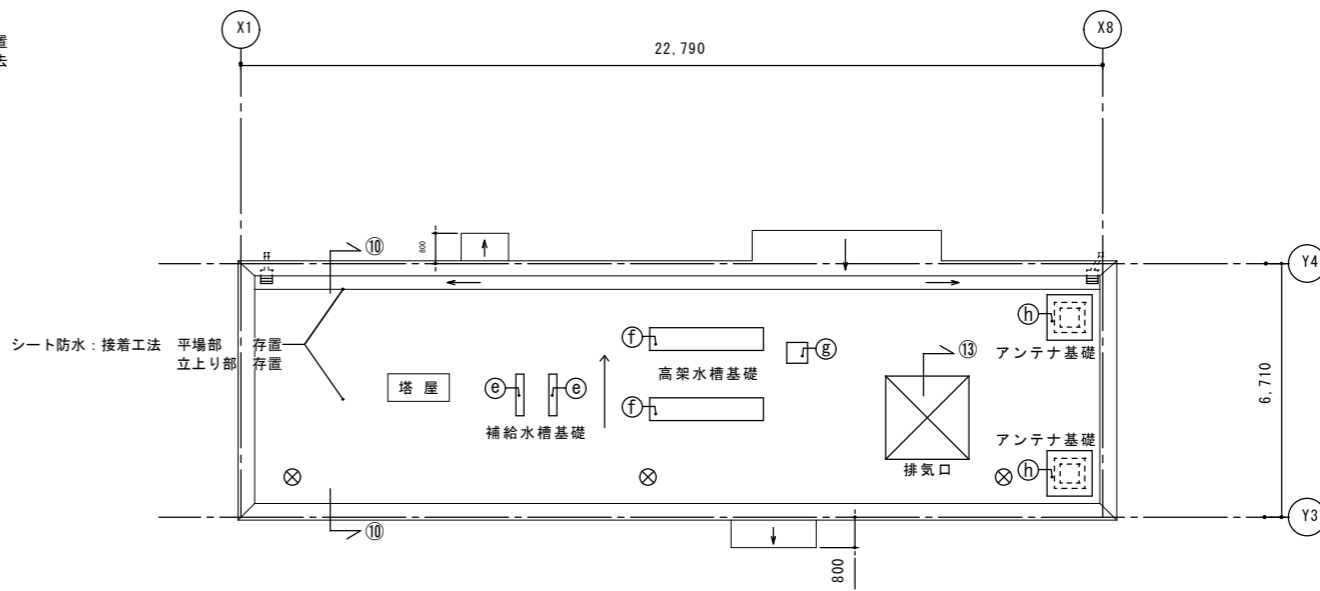
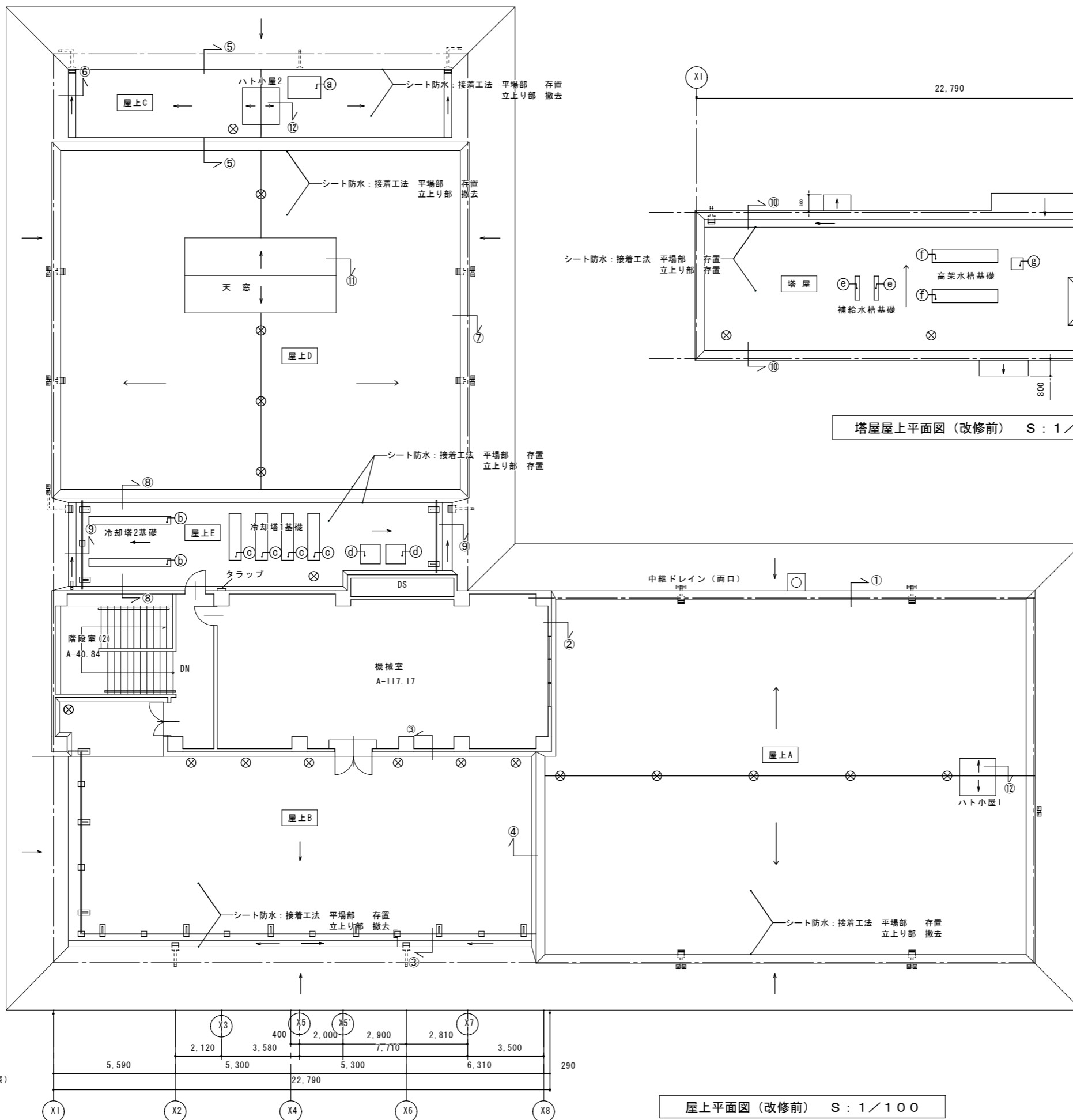


付近見取図 S=1:2500

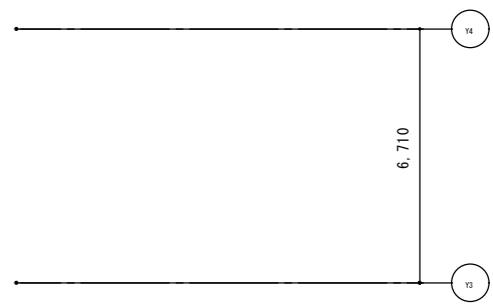
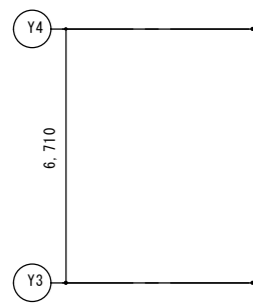


配置図 S=1:1000

Kyoto Prefectural University 京都府立大学事務局総務課		工事名 京都府立大学 本館屋上防水改修工事	図番 No. 04
設計番号	令和4年11月		
		工事名 付近見取図・配置図	縮尺 A1:S=1:2500, 1:1000 A3:S=1:5000, 1:2000



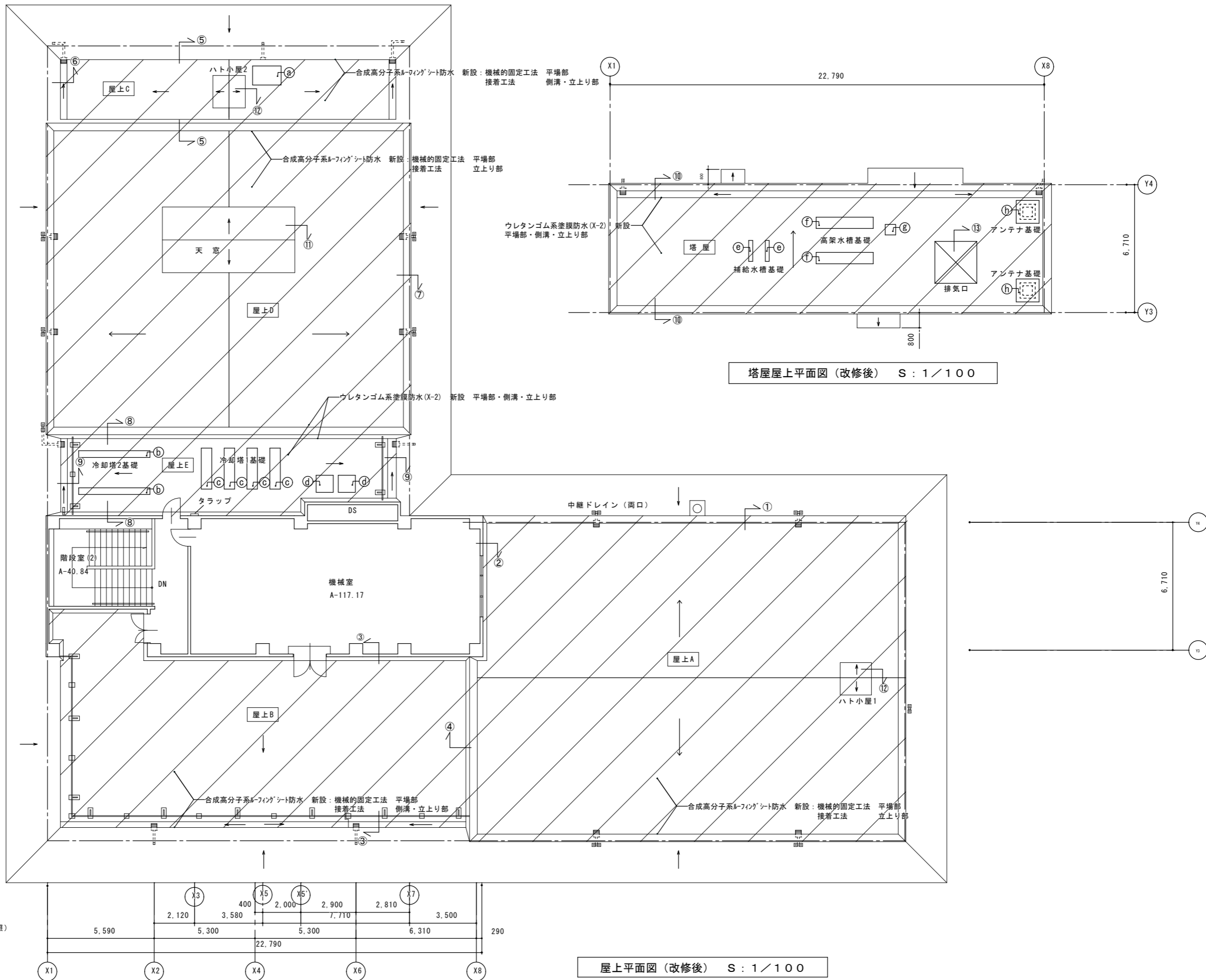
塔屋屋上平面図 (改修前) S : 1 / 100



- 凡例
- : 断面切断位置を示す
 - : 横引きルーフを示す
 - : 脱気筒撤去を示す
 - : 設備基礎を示す (改修概要は詳細図参照)
 - : フェンス基礎を示す (改修概要は詳細図参照)

屋上平面図 (改修前) S : 1 / 100

Kyoto Prefectural University 京都府立大学事務局総務課		工事名 京都府立大学 本館屋上防水改修工事	図番 No. 05
設計番号	令和4年11月	図名 屋上平面図 (改修前)	縮尺 A1:S=1:100 A3:S=1:200
			16 枚の内



塔屋屋上平面図 (改修後) S : 1 / 100

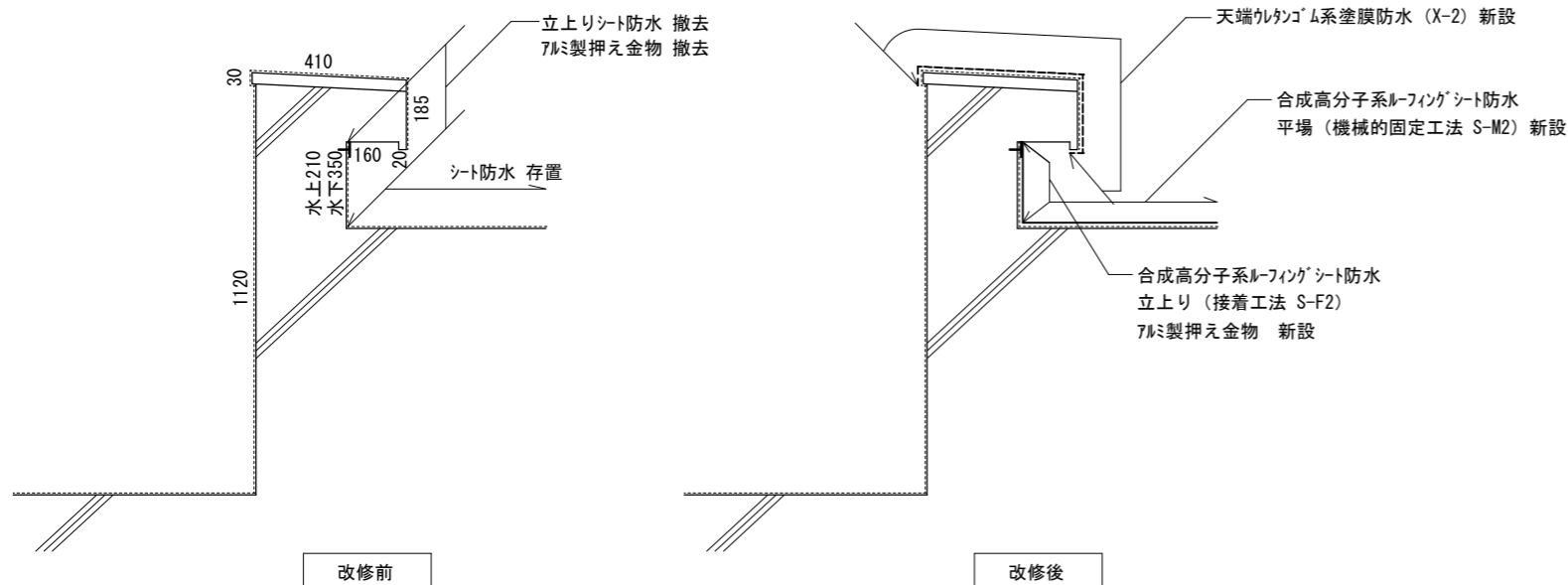
屋上平面図 (改修後) S : 1 / 100

- 凡例
- : 防水改修範囲を示す
 - : 断面切断位置を示す
 - : 改修用横引きルーフドレンを示す
 - : 設備基礎を示す (改修概要は詳細図参照)
 - : フェンス基礎を示す (改修概要は詳細図参照)

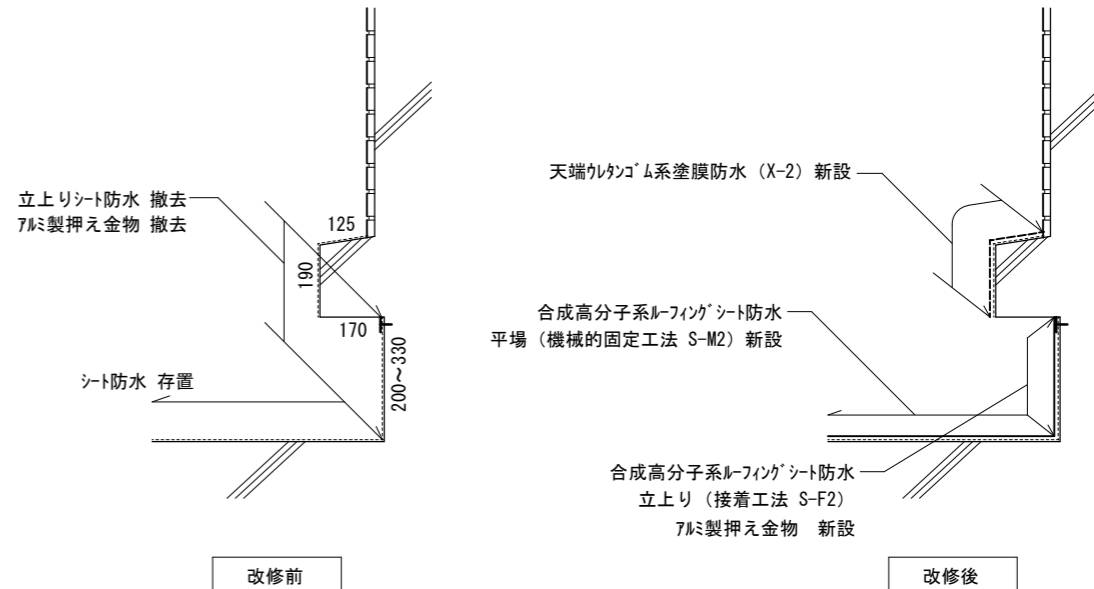
Kyoto Prefectural University
 京都府立大学事務局総務課
 設計番号 令和4年11月

工事名	京都府立大学 本館屋上防水改修工事		図番
図名	屋上平面図 (改修後)	縮尺 A1:S=1:100 A3:S=1:200	No.06 16枚の内

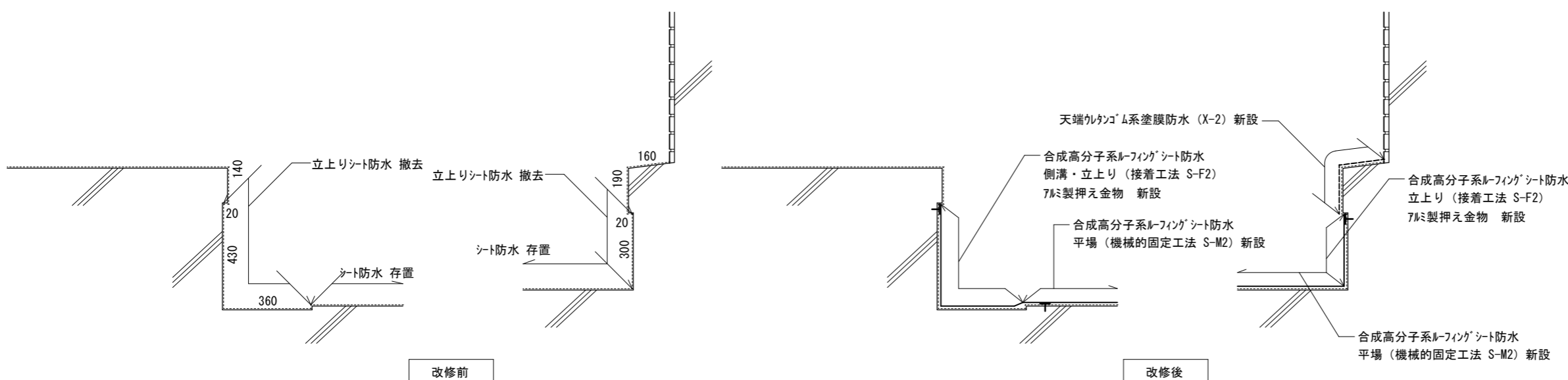
① 屋上A パラペット詳細図 1/10



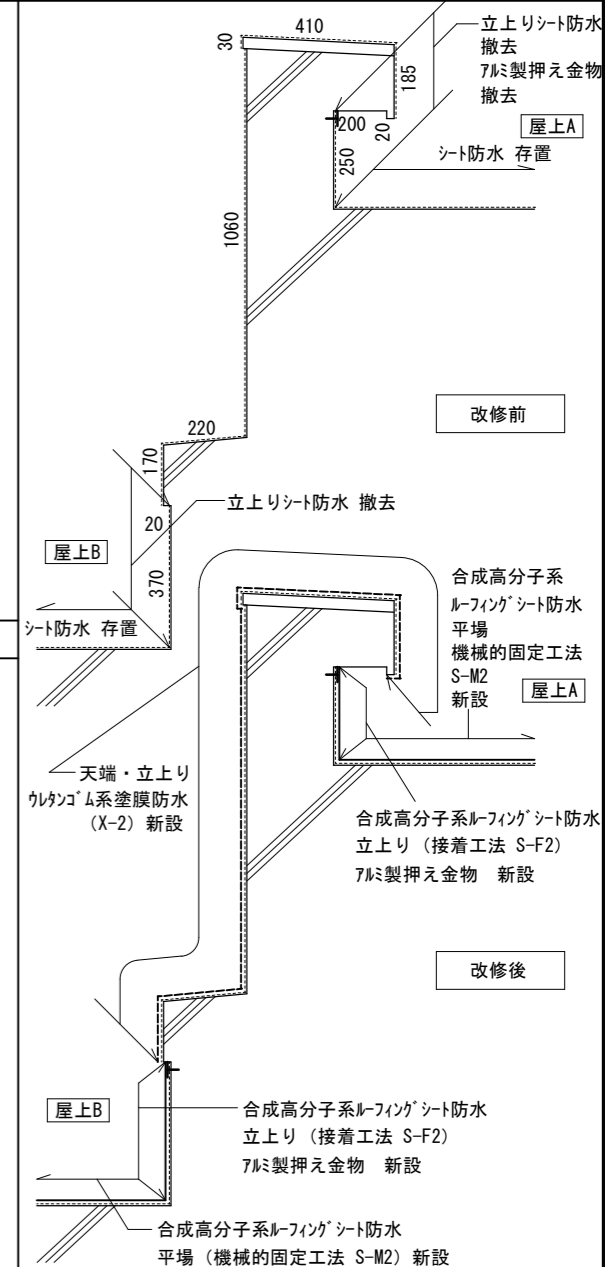
② 屋上A パラペット詳細図 (外壁側) 1/10



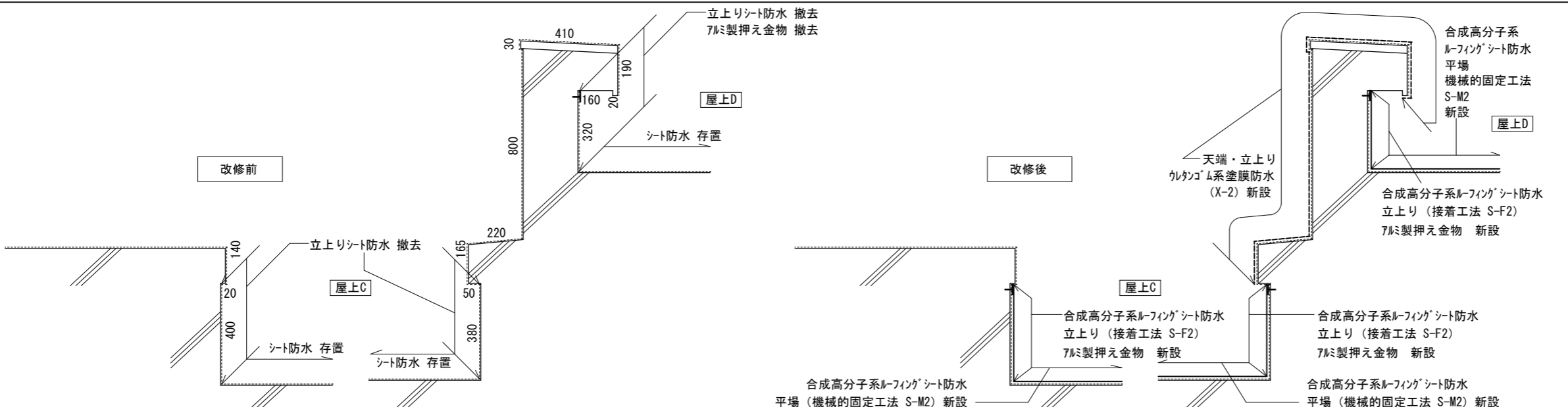
③ 屋上B パラペット詳細図 (水下・外壁側水上) 1/10



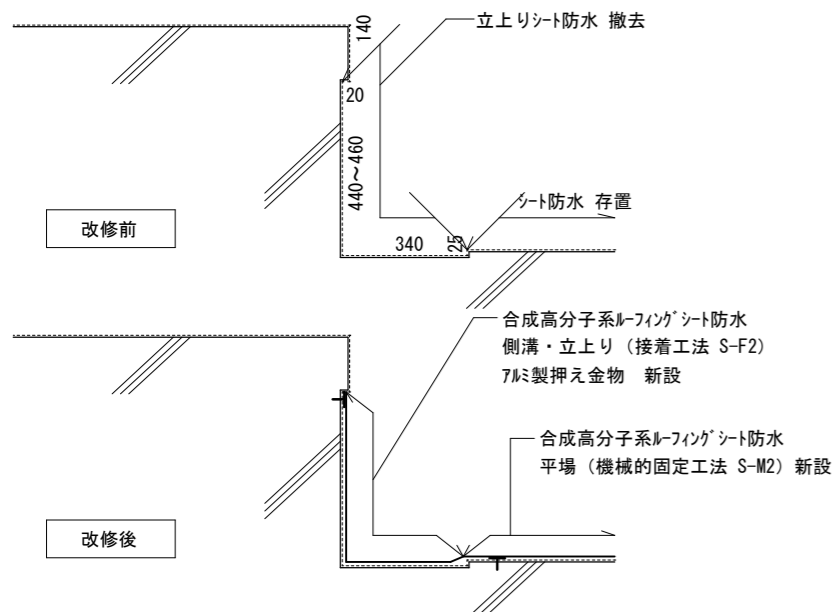
④ 屋上B パラペット詳細図 (妻側屋上A取合い) 1/10



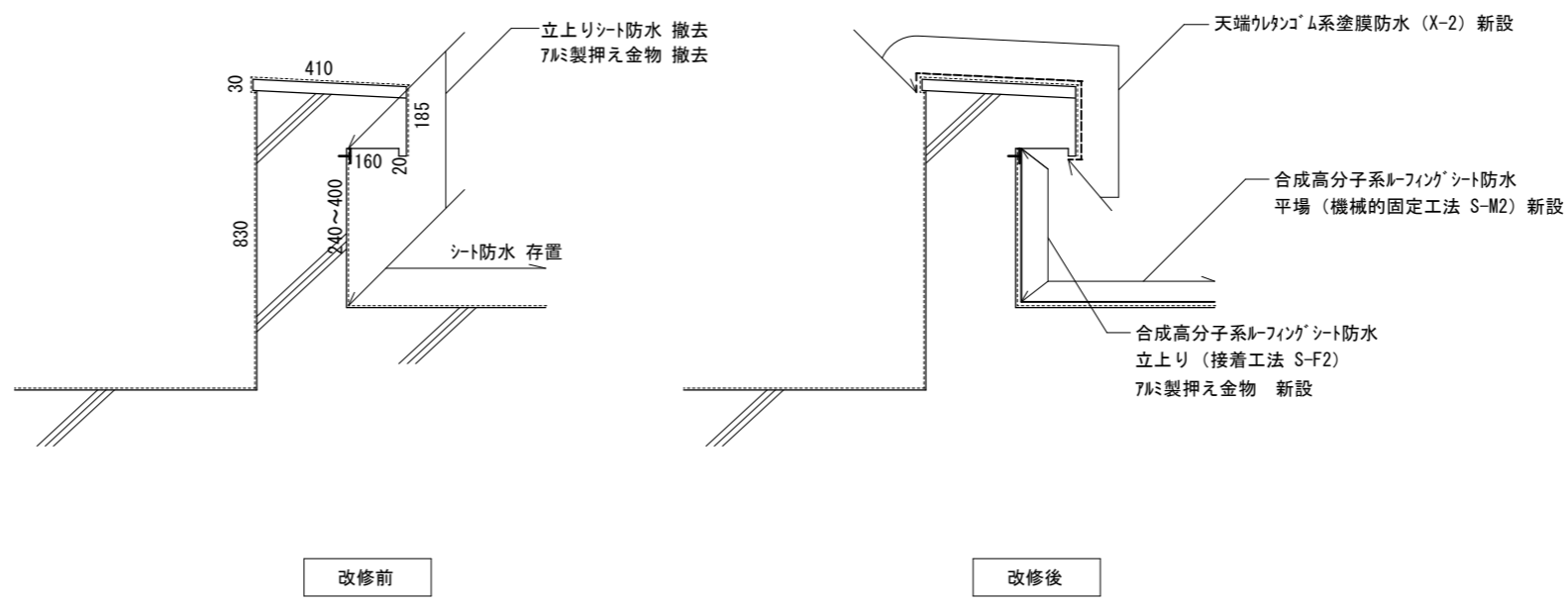
⑤ 屋上C パラペット詳細図 (屋上D取合い) 1/10



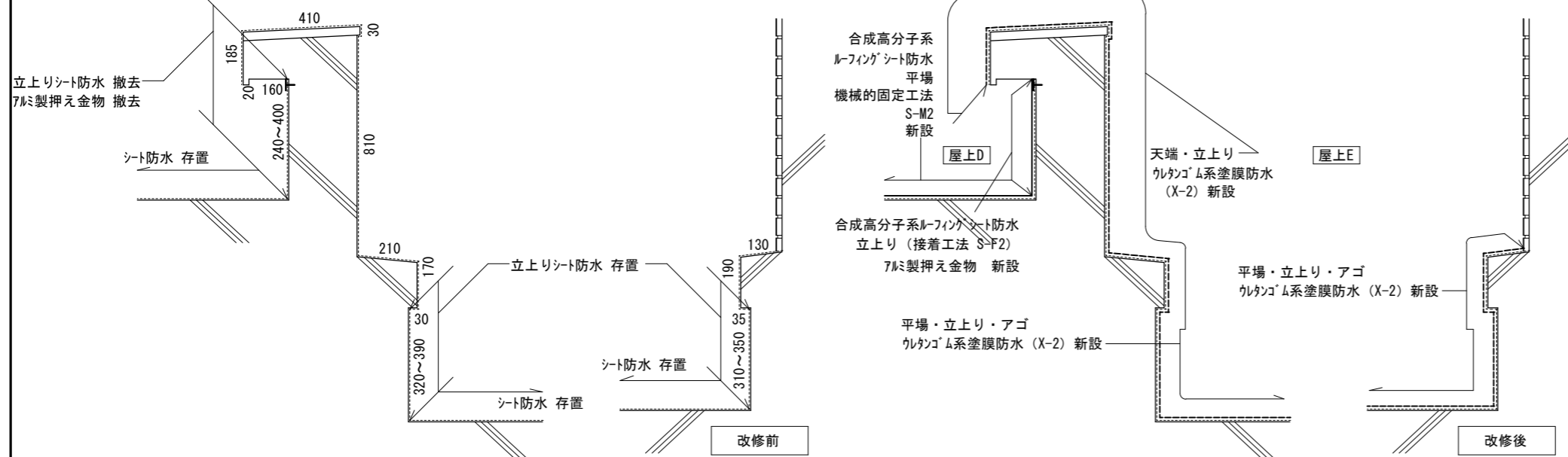
⑥ 屋上C パラペット詳細図 (水下) 1/10



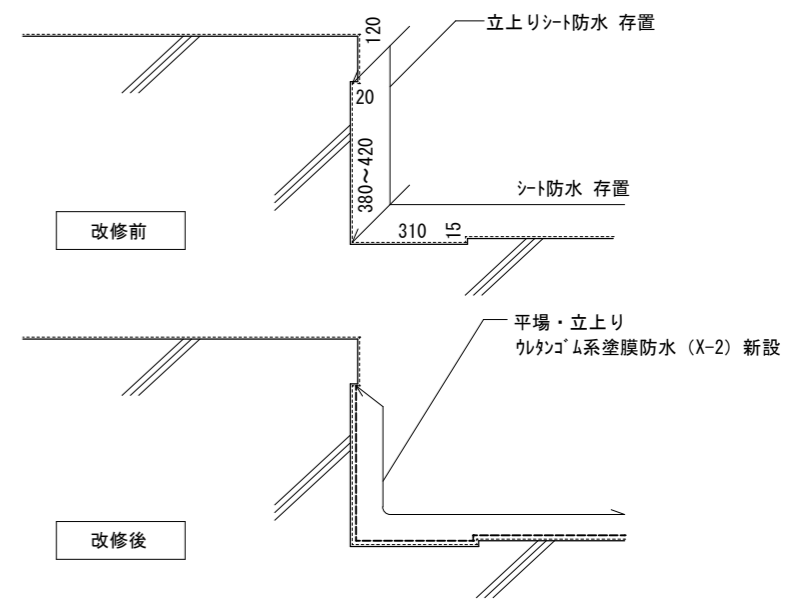
⑦ 屋上D パラペット詳細図 (水下) 1/10



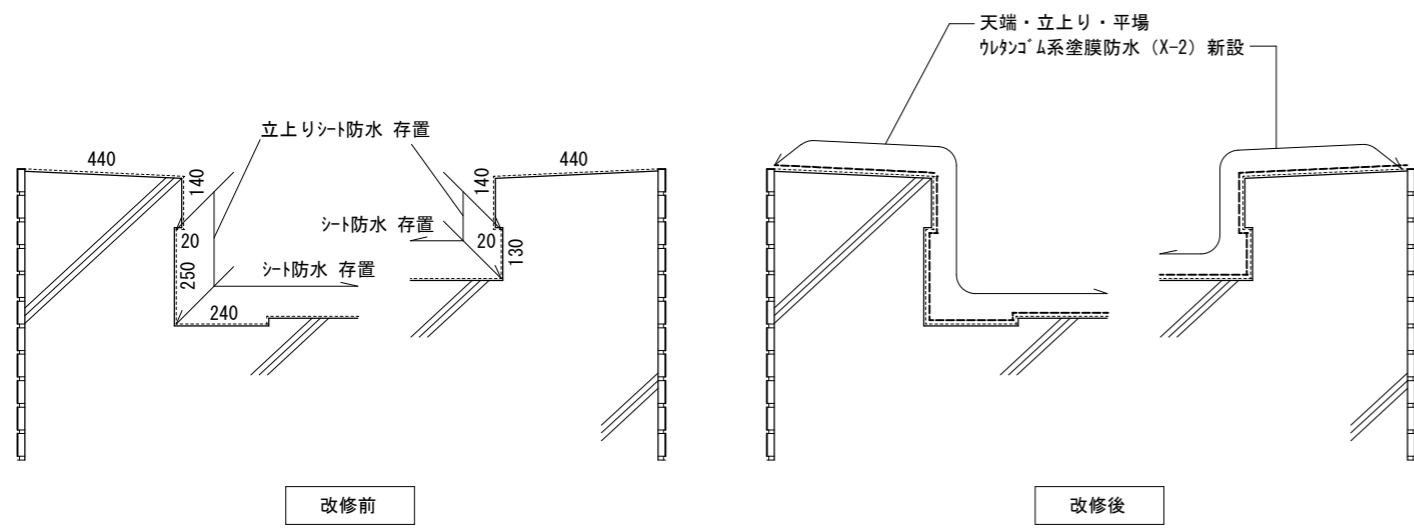
⑧ 屋上E パラペット詳細図 (屋上D取合い・外壁側) 1/10



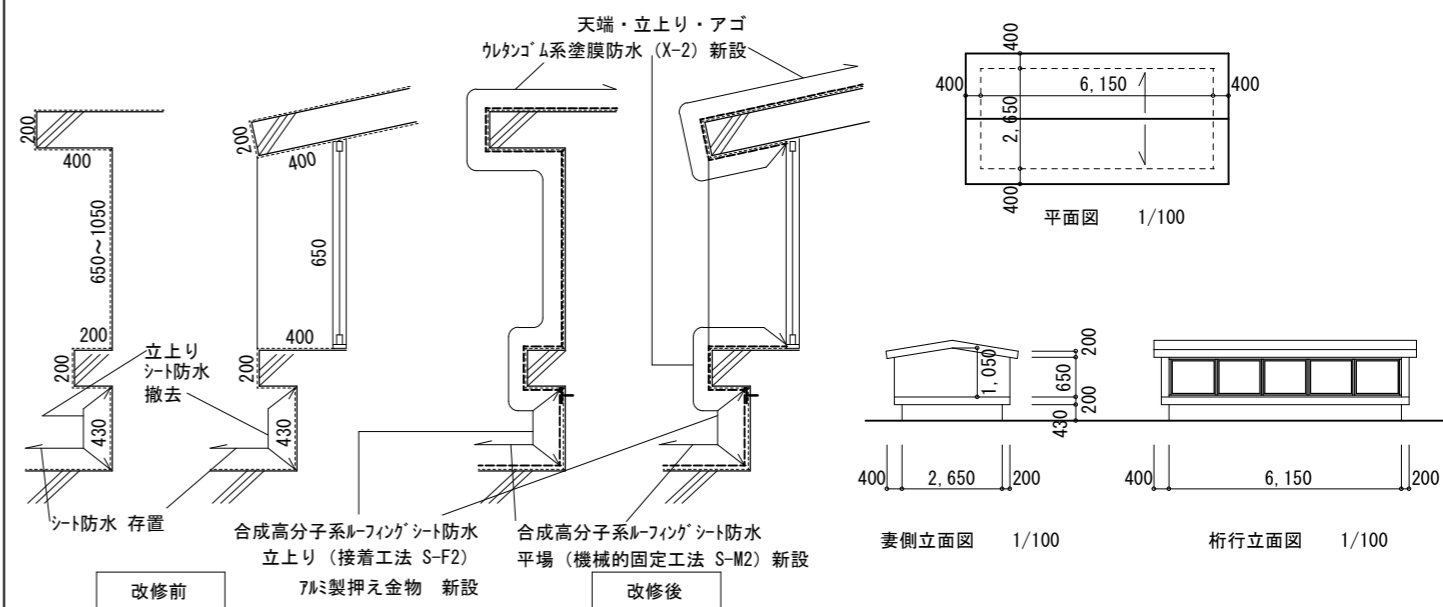
⑨ 屋上E パラペット詳細図 (水下) 1/10

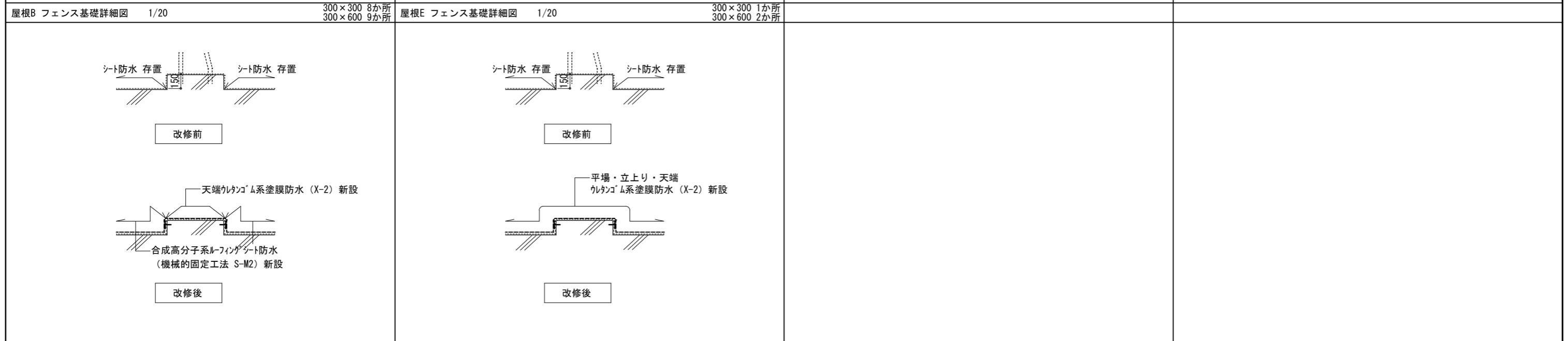
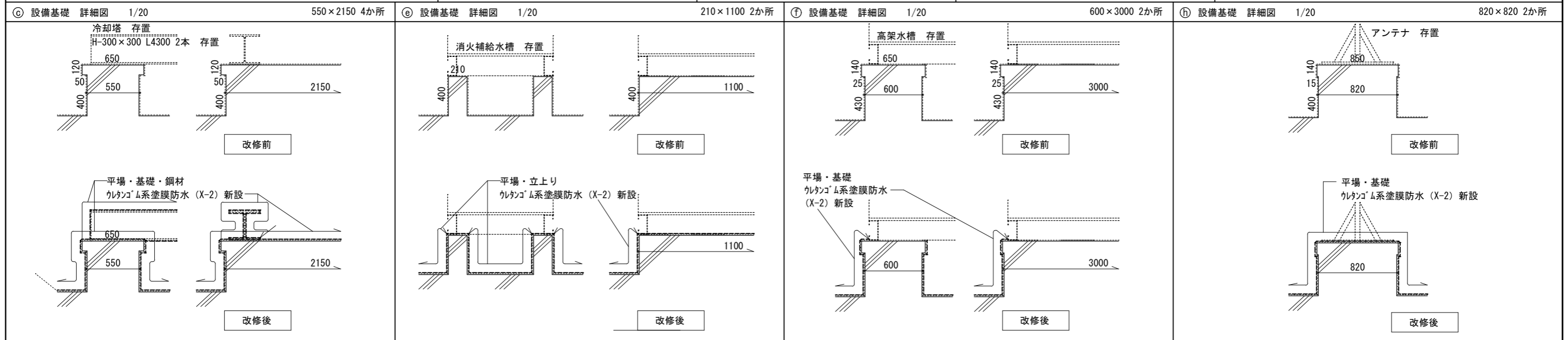
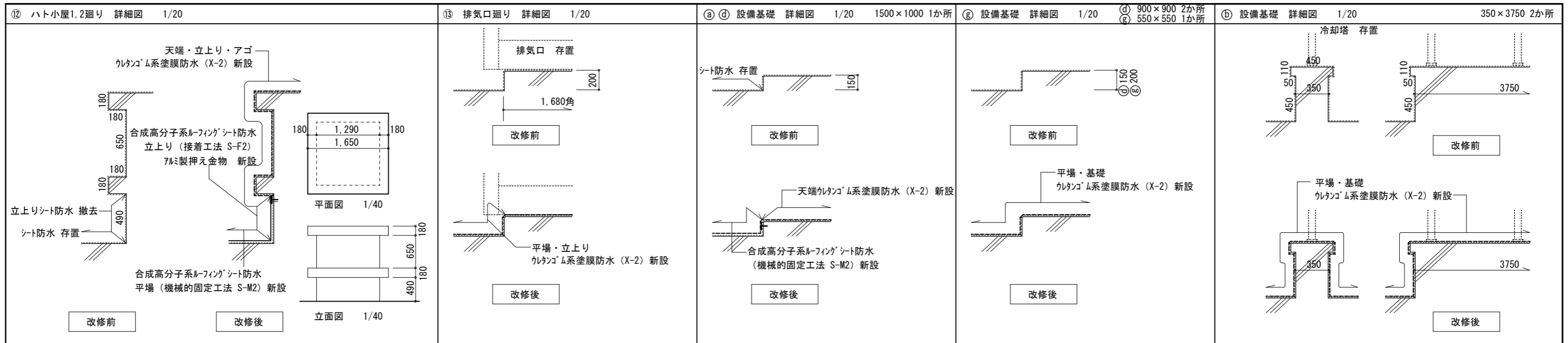


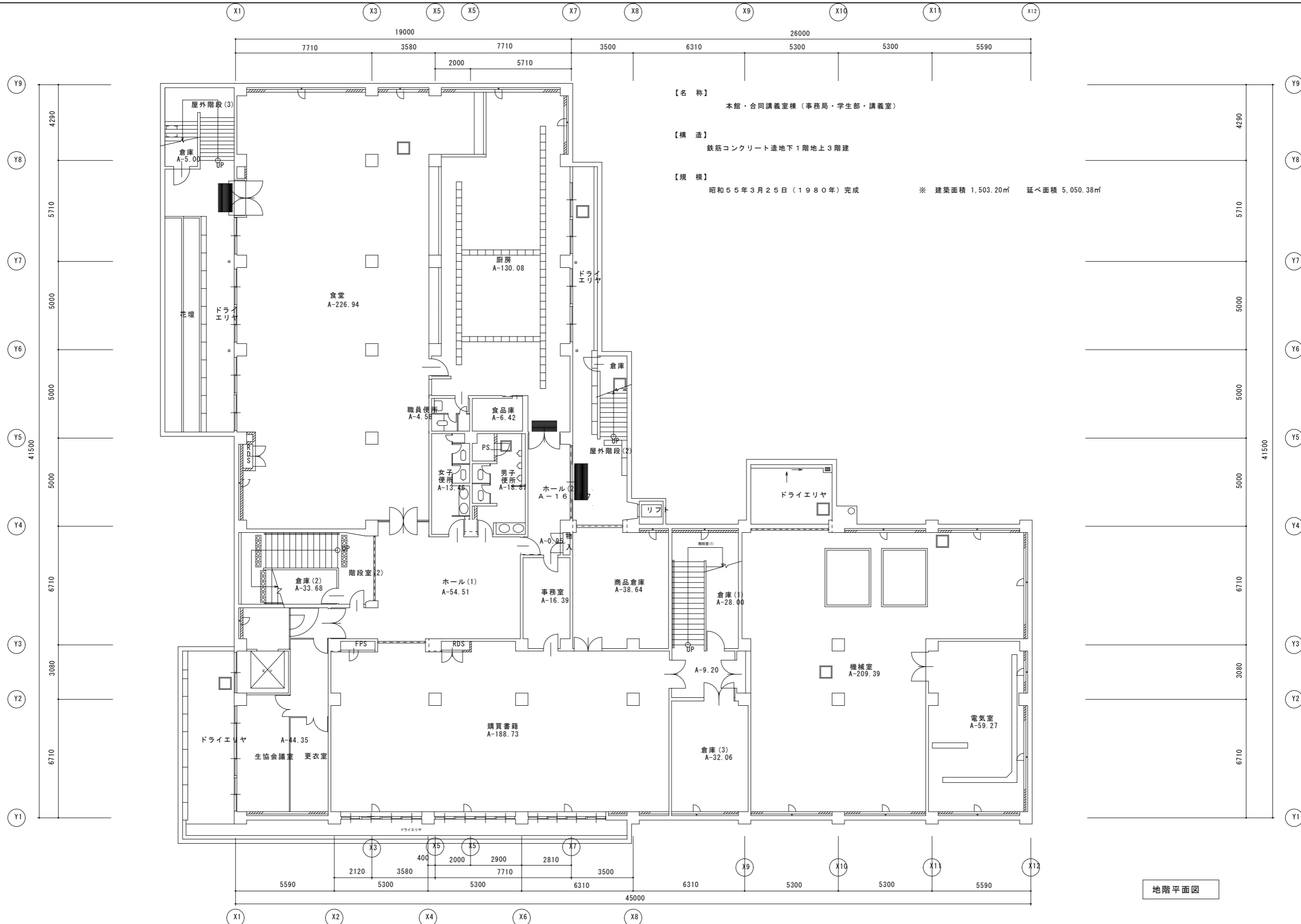
⑩ 塔屋 パラペット詳細図 (水下・水上) 1/10



⑪ 天窓廻り 詳細図 1/20







【名称】
本館・合同講義室棟（事務局・学生部・講義室）

【構造】
鉄筋コンクリート造地下1階地上3階建

【規模】
昭和55年3月25日（1980年）完成 ※ 建築面積 1,503.20㎡ 延べ面積 5,050.38㎡

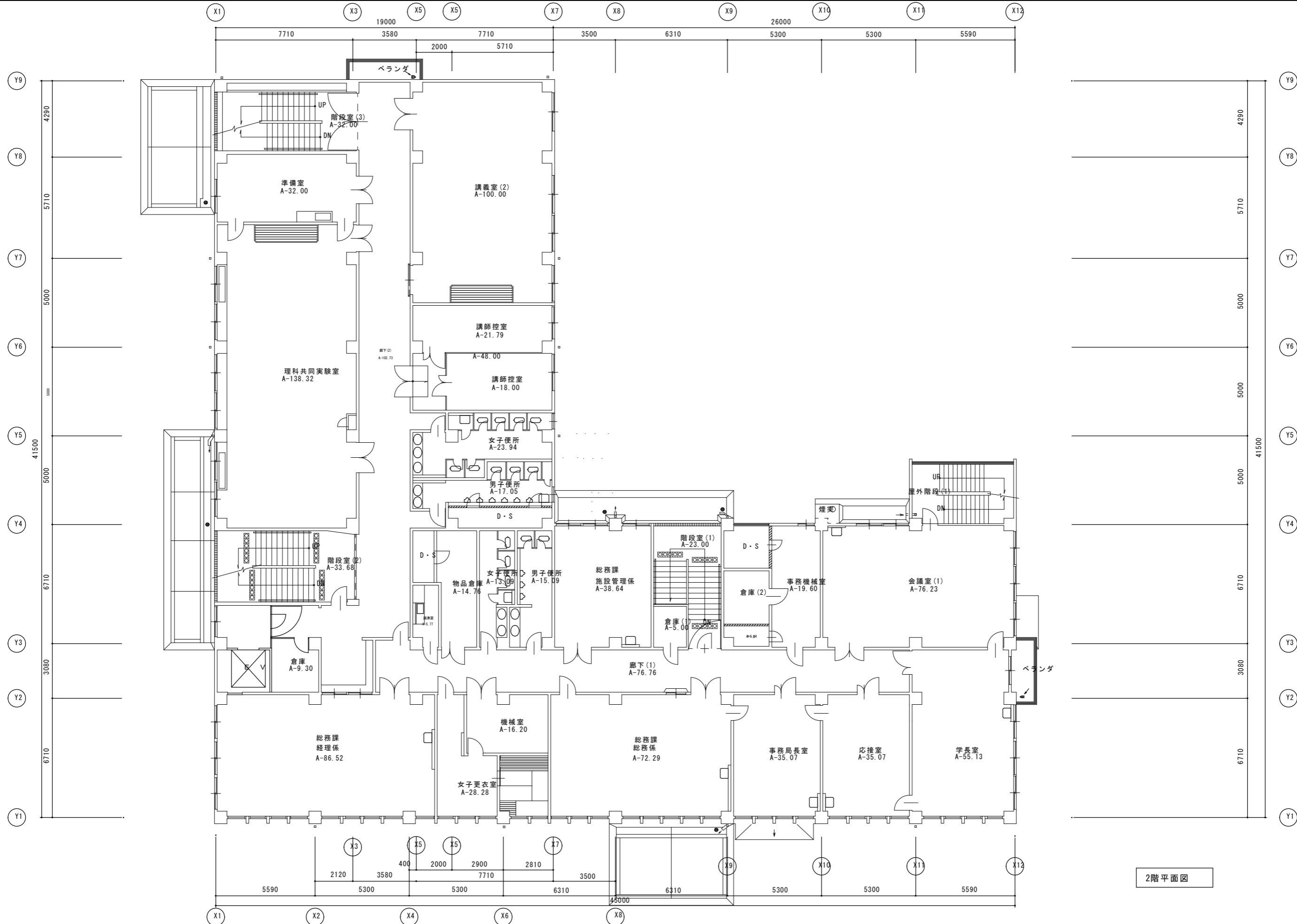
地階平面図

Kyoto Prefectural University 京都府立大学事務局総務課		工事名 京都府立大学 本館屋上防水改修工事	図番 No. 10
設計番号	令和4年11月	図名 (参考図) 地階平面図	縮尺 A1:S=1:100 A3:S=1:200
			16枚の内



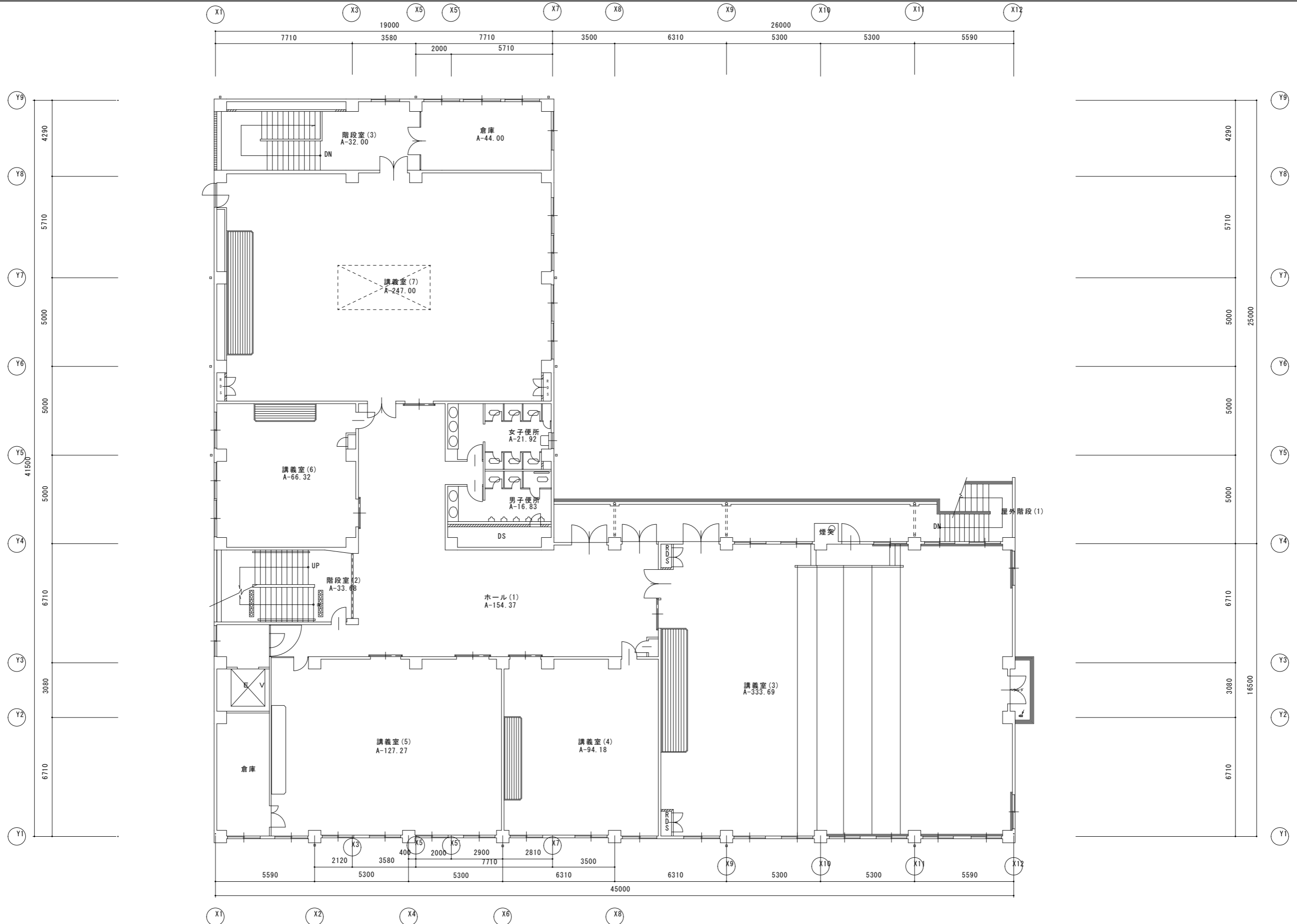
1階平面図

Kyoto Prefectural University 京都府立大学事務局総務課		工事名 京都府立大学 本館屋上防水改修工事	図番 No. 11
設計番号 令和4年11月	図名 (参考図) 1階平面図	縮尺 A1:S=1:100 A3:S=1:200	枚の内 16



2階平面図

Kyoto Prefectural University 京都府立大学事務局総務課		工 事 名	京都府立大学 本館屋上防水改修工事		図 番	No. 12	
設 計 番 号	令和4年11月	縮 尺	A1:S=1:100 A3:S=1:200	名	（参考図）2階平面図		
						16 枚の内	



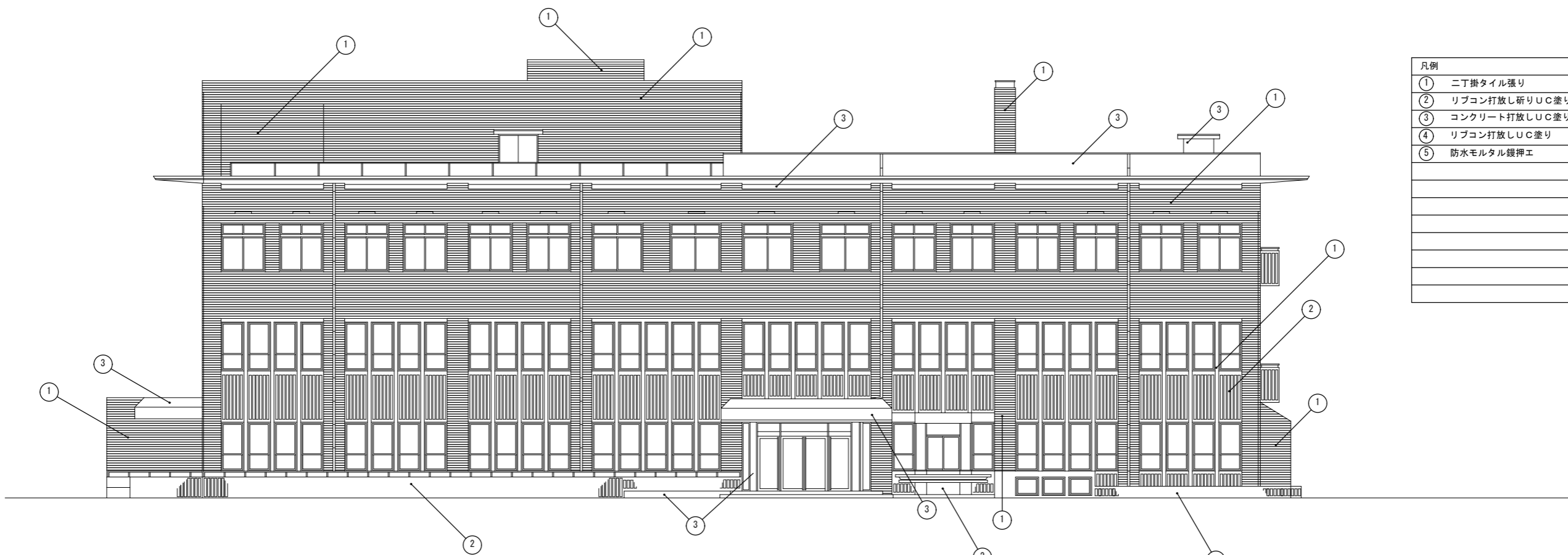
Kyoto Prefectural University	
京都府立大学事務局総務課	
設計番号	令和4年11月

工事名	京都府立大学 本館屋上防水改修工事
図名	(参考図) 3階平面図
縮尺	A1:S=1:100 A3:S=1:200

図番	No. 13
枚の内	16枚の内



西立面図 S : 1 / 100



南立面図 S : 1 / 100

凡例	
①	二丁掛タイル張り
②	リフコン打放し斬りUC塗り
③	コンクリート打放しUC塗り
④	リフコン打放しUC塗り
⑤	防水モルタル鍍押工

Kyoto Prefectural University 京都府立大学事務局総務課		工事名 京都府立大学 本館屋上防水改修工事	図番 No. 14
設計番号	令和4年11月	図名 (参考図) 南・西立面図	縮尺 A1 : S=1 : 100 A3 : S=1 : 200
			16枚の内



東立面図 S : 1 / 100



北立面図 S : 1 / 100

Kyoto Prefectural University 京都府立大学事務局総務課		工事名 京都府立大学 本館屋上防水改修工事	図番 No. 15
設計番号	令和4年11月	図名 (参考図) 北・東立面図	縮尺 A1:S=1:100 A3:S=1:200
			16 枚の内

